



# やなぎっ子

さいたま市立片柳小学校

TEL 048-683-3174

FAX 048-683-8971

<http://katayanagi-e.saitama-city.ed.jp/>

## 右から二番目の星

校長 萩原 哲哉

6年生は24日(水)、1年生から5年生は26日(金)で、令和2年度の本校における教育活動を終了し、それぞれ修了証をお渡しします。

1年前の3月からの臨時休業に始まった学校のコロナ禍は、徐々に沈静化の兆しも見えはじめている反面、まだまだ予断を許さない状況が続いていますが、現時点、本校ではコロナによる直接的な健康被害は起きていません。感染予防対策を十分に御指導いただいた保護者の皆様に感謝申し上げますとともに、それをしっかりと実行した子どもたちの頑張りを、心から称賛したいと思います。

コロナ禍による最大の「被害」は、学校行事が例年通りに行えなかったことに尽きます。特に、小学校生活で「一番」の思い出になるはずであった修学旅行を、実施できなかったことが、6年生に対しても、申し訳ない思いです。

「一番」という言葉。「一番好きなこと(もの)は、何?」とか、「一番欲しいものは?」「一番やりたかったことは?」等々、日常的に使っている言葉です。目に付きやすく、意識しやすいものです。叶うかどうかは別として、当然それは「あるべきもの」であり、無くなってしまうことなど考えもせません。ゆえに無くなってしまうと、気持ちにぽっかりと穴が空き、「二番目」を考えることになど、思いが及ばなくなります。あるべきものがなかった、ということで、「この一年、何もなかった」という印象を受けるのも、この点に拠るものと思われれます。

「二番目」を考える中で、浮かんでくるのが、表題の言葉でした。ディズニー映画「ピーターパン」の作中歌で、原題は「SECOND STAR TO THE RIGHT」。直訳すると「右の方に向かって二つ目の星」となり、ニュアンスが変わってきますが、ネバーランド(=子どもにとって憧れの場所)の場所をはっきりとさせない、という意図と、とらえたいと思います。

子どもたちにとって、「一番」は、御家庭であり御家族です。寝食を行う場というだけでなく、気持ちをリラックスさせ、気兼ねなく過ごせる場であるからです。学校が一番楽しい、と子どもが言ってくれることはありがたいのですが、それは子どもの体や心を支えてくださる御家庭や御家族があってこそです。

スポーツや文化面の大会やコンクールなどには、序列をつける基準があります。勝率であったり、タイムであったり、距離であったり。基準があるため、一番・二番・・・の序列が付けられますが、「好きなこと」「やりたいこと」「ほしいもの」・・・といった精神的なものには、明確な序列は付けにくいものです。コロナ禍はそんな「二番目」を意識する考え方、次善策、代案を考える機会や習慣を、私たちに与えてくれたと、考えてみたいと思います。

「できなかったこと」を数え、憂うより、「できたこと」に気付き、感謝する——そんな心持ちで、最後のカレンダーをめくりたいと思います。

本年度いただきました御厚情に、心から感謝申し上げますとともに、次年度も変わらぬ御支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。